

理事長挨拶 ～新しい実践知の創生をめざして～

東邦看護学会理事長 齋藤 益子 (東邦大学医学部看護学科)

今年の夏は例年になく猛暑で、熱中症で救急外来を受診する患者さんが多かったと報道されていますが、温暖化に伴って不本意にも“生命”の終わりを迎えた方も多かったようです。災害などの自然の驚異の前には人間はなんと無力なことでしょう。猛暑と“生命のはかなさ”を感じさせた夏も終わろうとしています。会員の皆様はどのような夏をお過ごしたかったですか。

さて、第1回東邦大学看護研究会が開催されて10年が過ぎようとしています。「光陰矢の如し」といいますが、あっという間に第10回を迎える事になり、設立に関わったものとして感慨もひとしおです。

研究会の設立は、基礎教育を支える教員と卒後教育を担う臨床が力を併せて東邦看護の質の向上を願い、学部や大学院教育の土台となる臨床看護実践力や教育力・研究力の向上を期待しての事でした。この10年の間に多くの学部卒業生を臨床に送り出すことが出来、今年の4月からは博士課程もスタートすることが出来ました。この時期に東邦看護研究会から東邦看護学会として発展することが出来たことはこの上ない喜びです。10年間の研究会活動を支えて頂いた多くの皆様に心から感謝申し上げます。

本研究会は、共に東邦の看護の向上を目指して同じ言葉を語る場となり、共通の目標である「心に

寄り添う看護」を共有して仲間意識を育成し、コミュニケーションを図る場になって参りました。学術集会での発表も充実してきています。しかし、今日の医療は各

職種連携が以前にもまして重要になっています。看護職のみならず医師や薬剤師、検査関係者など患者に関わる夫々の職種が、お互いに連携をとりながら研鑽することが大切です。幸い本学には、理学部・薬学部もありますので、医師や看護職のみでなく、学際的に他職種の方々と共同した研究活動も可能となり、総合医療の側面や職種間の連携の場にもなることを期待しています。

他の看護学会にない新たな看護の実践知を創生していくことができる様に、第10回の学術集会のテーマは「未来に羽ばたく看護—新しい価値の創造」と致しました。明日からの看護に貢献できる実践的な研究を推進していく土台として、東邦看護学会がさらに発展することを願い、皆様と一緒に大きく育てていきたいと思っています。



東邦看護学会委員会の紹介

学会誌編集

出野 慶子	東邦大学医学部看護学科
野々山末希子	東邦大学医学部看護学科
伊東 和子	東邦大学医療センター大森病院
都橋 薫	東邦大学法人本部看護企画室
菊地 由美	東邦大学医学部看護学科
細谷 幸子	東邦大学医学部看護学科
長谷川直人	東邦大学医学部看護学科

●活動内容

今年度は、東邦大学看護研究会誌より東邦看護学会誌として創刊号を発行することになり、委員長ほか6名の委員で作業をすすめております。

編集委員会は、投稿者が査読者とのやりとりを行うことにより、論文としての精度を高められるように橋渡しをすること、そして学会誌という形にすることが主な仕事です。学会誌としてのレベルアップも視野に入れながら頑張りたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

研究活動支援

福田美和子	東邦大学医学部看護学科
鈴木 康美	東邦大学看護キャリア支援センター
津野 陽子	東邦大学医学部看護学科
三條真紀子	東邦大学医学部看護学科
富岡 由美	東邦大学医学部看護学科

●活動内容

会員を対象に、学術集会における発表論文への受賞と研究活動に必要な費用を奨励金として助成しています。今後は、学会誌への論文投稿へのサポートシステムの構築も図っていきたくと考えております。



広報

横井 郁子	東邦大学医学部看護学科
畑中 晃子	東邦大学医療センター大森病院
山城 久典	東邦大学医学部看護学科
影山 美子	東邦大学医療センター大橋病院
林 弥生	東邦大学医療センター佐倉病院
安武 綾	東邦大学医学部看護学科

●活動内容

ニューレターの発行を年2回予定しています。学会の動き、学術集会の予告等をお知らせしていきたいと思っています。また、今年度は学会のホームページを作成することを大きな目標としています。学会の申し込み方法など随時お知らせできる場としたいと思っています。

庶務

出射 明子	東邦大学法人本部看護企画室
寺口 恵子	東邦大学医療センター佐倉病院
山崎 圭子	東邦大学医学部看護学科
鈴木明由美	東邦大学医学部看護学科

●活動内容

庶務系の業務は、理事会の開催、学会委員の管理・入会案内、学会委員名簿管理、会則の管理、事業計画の作成です。そして、学会理事会・評議委員会が円滑に進むように、環境を整えサポートをする仕事です。今年度から、学会組織になり会員の募集と会費徴収は各施設にお願いをし、外部からの入会者については庶務が受け付けることにしました。また、名簿の管理については施設ごとにコード化をして管理するよう工夫しました。

皆様をお願いしたいことは、多くの方に会員になっていただき学会を盛り上げていただきたいということです。そして、会員を増やすためのアイデアがあればとどしどしご意見をください。

会計

菊地 京子	東邦大学医療センター大橋病院
鈴木 良美	東邦大学医学部看護学科
柏木 珠未	東邦大学医学部看護学科

●活動内容

今年度、「東邦看護学会」に名称が変わり、会費を3,000円といたしました。会員もすでに1,500名を超えています。皆様の会費を大切に活用させていただきます。

研究活動支援について

研究活動支援委員会 福田 美和子 (東邦大学医学部看護学科)

研究活動支援委員会は、学会発足と同時に立ちあげられました。本委員会は、昨年度会計係で行っていた研究助成部分を独立させ発足したものです。したがって、現在の主な活動内容は、学術集会賞と研究奨励金の選定と表彰です。

学術集会賞と研究奨励金の制度は、昨年度、規定が作られ運用されております。この規定は、学会誌の最後に掲載されておりますが、周知されていないこともあると思いますので、改めて以下にご紹介いたします。

学術集会賞は、年1回開催される学術集会において発表された論文のうち、「優れた研究で発展的な発表をしたものや優れた実践を紹介し話題提供したもの」に対し、4演題選定し学術集会時に表彰をいたします。賞状と金一封が渡されます。こうした表彰制度は、会員相互の意見交換や話題提供が、より活発にかつ充実したものになることを目指したのもでもあります。研究はもちろんのこと、日々の実践報告も対象となりますので、学術集会に参集し共有したいことや深めたいことなど演題を通じて、どんどん出していただきたいと思っております。そして、学術集会が会員の皆様にとって実りあるものになるようにサポートしていきたいと思っております。

研究奨励金は、1題につき30万円を上限として、年2題に対し与えるものです。研究には調査費や調査に必要な機材、文献なども必要だと思っております。それ以外に研究のことをメンバー間でディスカッションするときの会議費も必要と思っております。研究奨励金は、そうした研究活動が円滑にいくための経費に使っていただくためのものでもあります。ただし、その研究内容については、学会誌への投稿の義務があり

ます。現在の規定では、東邦3病院と看護学科、佐倉看護専門学校と組織を超えた共同研究に対し奨励金を拠出することにしてはおりますが、学会となった今は、東邦関連以外の方からの応募にも対応できるよう、規定の見直しを早急に行います。奨励金の応募については、ホームページが立ちあがるまでは、各施設の代表者に必要書類が送られますので、指定された期日までに研究活動支援委員の方に提出していただければ幸いです。

最後に今後の活動について、アナウンスさせていただきます。研究活動支援委員会では、会員の皆様の看護実践活動や研究活動が、それぞれの場でまとめるだけにとどまらず、学会誌や学術集会への発表を通して他の会員の方々に多くの情報が発信されるよう、サポートしていきたいと思っております。それにあたり、研究したい、今の看護実践を報告してみたいと思っても、なかなか文章化したりまとめたりすることが難しいと思われる方々へのサポート体制を構築していきたいと思っております。具体的には、学術集会などを利用して相談コーナーや交流ゼミのようなものを開催するなど考えられますが、皆様からのご要望も受け付けたいと存じます。皆様の研究活動と看護実践活動がより活性化するよう、具体的にどのようなサポートがあったらよいのか、お寄せいただくと幸いです。今後ともよろしく願います。



第10回東邦看護学会学術集会ならびに10周年記念式典

◆メインテーマ◆ 未来に翔ばたく看護 — 新しい価値の創造 —

- 日時 平成22年12月19日(日) 9:00開場
- 場所 グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール
会長 齋藤 益子(東邦大学医学部看護学科)

■プログラム

	第1会場(3階 翠雲)	第2会場(2階 青葉)	第3会場(2階 松葉)
9:00	開場		
9:30	受付(3階翠雲前)		
10:00	開会		
10:05	一般演題(口演)	一般演題(口演)	一般演題(ポスター)/企業展示
11:15	会長講演「 看護の価値と喜び 」 演者 齋藤 益子(東邦大学医学部看護学科) 座長 拜原 優子(東邦大学佐倉看護専門学校)		企業展示
11:50	総会・10周年記念式典		
12:30	ランチョンセミナー①	ランチョンセミナー②	
13:20	昼休み		
13:40	10周年記念特別講演 「 社会の求める看護職のあり方 — 看護師としてどう成長するか — 」 演者 勝原 裕美子(聖隷浜松病院) 座長 遠藤 英子(東邦大学医学部看護学科)		企業展示
15:00	シンポジウム「 社会が求める看護実践力とは 」 座長 菊地 京子(東邦大学医療センター大橋病院) 出射 明子(東邦大学法人本部看護企画室) シンポジスト 医師 鷲沢 尚宏(東邦大学医療センター大森病院) 利用者 山登 義明 医療ジャーナリスト 村上 紀美子 看護師 久保 亜希子(東邦大学医療センター大森病院) 指定発言 竹内 千恵子(東邦大学看護キャリア支援センター)		企業展示
17:00	次期会長挨拶		
17:05	閉会		
17:15	10周年記念祝賀会(3階香雲)		

第10回 東邦看護学会学術集会を平成22年12月19日(日)に、「未来に翔ばたく看護 — 新しい価値の創造 —」と題して開催致します。これまで学術交流会として会を重ねてきましたが、今年度より「学会」として新たに生まれ変わり、会場も看護学科からグランドプリンスホテル新高輪 国際館パミールに変えて「学術集会」となります。また、ランチョンセミナー、企業展示とこれまでの学術交流会ではなかった新しい企画を取り入れました。

特別講演には、聖隷浜松病院の勝原裕美子氏をお迎えして、氏のご専門である「キャリア」の視点で「社会の求める看護職のあり方—看護師としてどう成長するか—」というテーマでご講演いただきます。

シンポジウムは、「社会が求める看護実践力とは」というテーマで、医師、利用者、医療ジャーナリスト、そして看護師とそれぞれ立場の異なる4者をお迎えします。医療崩壊が起きているとされる現在の日本の医療現場で看護師が求められている実践力についてみなさまと一緒に考えたいと思っています。

多くの会員の皆様のご参加をお待ちしています。

編集後記

今回は、東邦大学看護研究会から東邦看護学会に変わる節目のニュースレターです。猛暑のこの夏、多くの方がたにご執筆していただきました。どうもありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

担当者

第14号ニュースレター事務局

東邦大学医学部看護学科 横井郁子 山城久典 安武綾
〒143-0015 東京都大田区大森西4-16-20

Tel.03-3762-9881(代) Fax.03-3766-3914
E-mail: yokoiyk@med.toho-u.ac.jp